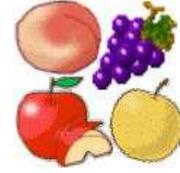




# 平成23年度 果樹情報 第11号

(平成23年9月8日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (8月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は4半旬が25.9℃で平年より1.1℃高く、5半旬が21.8℃で平年より3.0℃低く、6半旬が23.3℃で平年より1.1℃低く経過しました。この期間の降水量は61.5mmで平年の73%でした。

## 2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

8月31日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmがpF2.3で適湿、深さ40cmがpF1.8、深さ60cmがpF1.8でそれぞれやや過湿傾向となっています。

## 3 生育概況 (9月1日現在：果樹研究所)

表2 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所9月1日調査)

果実肥大	モモ		ナシ		リンゴ	
	ゆうぞら		豊水		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	73.7	78.8	75.9	87.4	72.6	82.1
平年比(%)	98	96	103	104	102	105

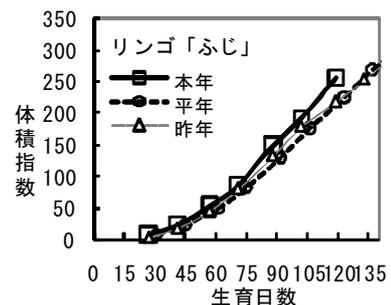
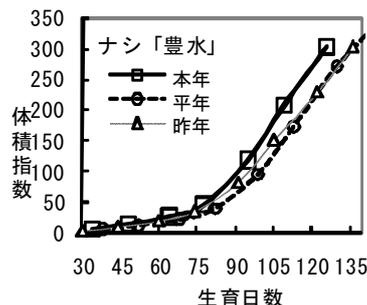
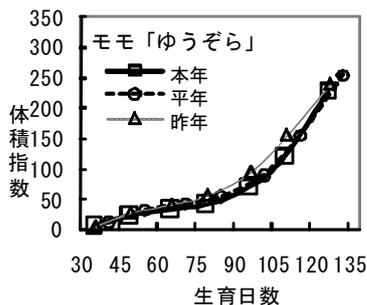


図 主要品種の果実肥大 (果実の生育日数比較 果樹研究所9月1日調査)

### (1) モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が平年比98%、側径が平年比96%と平年よりやや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、ほぼ平年並みとなっています。

「あかつき」の収穫盛りは8月10日で平年より4日遅れました。果実品質は、一果重が278g(平年255g)、糖度(Brix)が12.0%(平年12.6%)でした。

「川中島白桃」の収穫始めは8月26日で平年より1日遅れました。

「ゆうぞら」の収穫始めは9月1日で平年並みでした。

### (2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が平年比103%、横径が平年比104%と平年よりやや大きい状況です。果実の生育日数による比較でも、平年よりやや大きい状況です。

「幸水」の収穫始めは8月29日で平年より2日遅く、収穫盛りは8月30日で平年より3日早まりました。また、満開100日(8月10日)～満開122日(9月1日)にかけての果実の成熟状況では、8月中旬頃から果実硬度は平年より低く、果肉先行で推移しました。糖度は、平年より低めに推移しました。

8月31日現在の「豊水」の果実の成熟状況(満開後125日)は、果肉硬度は平年よりやや低く、果皮中のクロロフィル含量は平年より高い状況でした。また、糖度は平年並みでした。

### (3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が平年比102%、横径が平年比105%で平年よりやや大きい状況です。また、果実の生育日数による比較でも、平年よりやや大きい状況です。

「つがる」の収穫始めは8月26日、収穫盛りは9月1日でもに平年より3日早い状況でした。果実品質は、一果重が318g（平年286g）、糖度（Brix）が12.8%（平年12.6%）、硬度が12.8ポンド（平年11.6ポンド）でした。

9月1日現在の「つがる」の果実の成熟状況（満開後117日）は、硬度は平年並みですがデンプンが急速に消失しました。リンゴ酸は平年並みで、糖度はやや高い状況でした。また、果皮中のアントシアニン含量は平年より高く、クロロフィル含量は平年より低い状況でした。

### (4) ブドウ

9月1日現在の無核栽培「巨峰」の成熟状況（満開後76日）は、糖度（Brix）が17.0、酒石酸含量が0.63%、糖酸比が26.9となっています。酸の減少が早い傾向があります。

## 4 栽培管理上の留意点

### (1) モモ

#### ア 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を実施し、樹勢の回復につとめましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度（あかつきの場合）施用します。

#### イ 秋季せん定

若木などで樹勢が強く、徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）に秋季せん定を実施しましょう。なお、樹勢が弱い樹では、葉数確保を優先し、秋季せん定は実施しないか、実施しても最小限とします。

### (2) ナシ

#### ア 秋肥の施用

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃に秋肥を施用しましょう。秋肥は、尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で5～10kg/10a施用します。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上過ぎれば果実品質への影響は小さいと考えられるので、できる限り早く秋肥を施用しましょう。

### (3) リンゴ

#### ア 中生品種の収穫前管理

各品種の生育状況に合わせ、摘葉や玉回し等、着色管理が遅れないように注意しましょう。気温が高い日が続く場合は、日やけ果の発生が懸念されます。摘葉を実施する際には、最初に果実に直接付着している葉を中心に軽めに行い、その後気温の状況に注意しながら摘葉を進めます。

### (4) ブドウ

#### ア 「巨峰」の収穫

収穫時期は、樹勢や着房数、房の大きさに影響されます。果皮色や食味等により総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

収穫は、果実温の低い早朝に実施しましょう。また、できるだけ晴れている日に収穫を行い、収穫～調製の際には、脱粒したり、花粉が落ちないように果房を丁寧に取り扱いましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病害

#### ア リンゴ褐斑病

9月1日現在の果樹研究所の「ふじ」無防除樹における褐斑病の発病葉率は増加傾向にあります。昨年、本病の発生が多かった園や、既に発生が認められる園では、9月上旬の防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病

新梢葉での発生が増加傾向にあり、感染に注意が必要です。越冬病原菌密度の低下を図るため、9月上旬～10月上旬の秋季防除を徹底しましょう。

ウ ナシ黒星病

秋季防除は、翌年の伝染源となる鱗片での発病を予防するために重要です。越冬菌密度の低下を図るため防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア ナシヒメシンクイ

第3世代以降はナシの果実への寄生が増加します。例年、ナシの中晩生品種で果実被害が多い園では、9月1半旬頃までの防除を徹底しましょう。また、シンクイムシ類の被害果を発見したら必ず摘除し、水づけ等により適切に処分しましょう。

イ リンゴコカクモンハマキ

第2世代の防除適期は、9月2～3半旬頃と予想されます。モモでの発生密度が高い場合は収穫後も防除を徹底しましょう。

ウ モモハモグリガ

第6世代の防除適期は、9月3半旬～4半旬頃と予想されます。園地の状況を確認し、密度が高いモモ園では越冬密度を低下させるため防除を徹底しましょう。

エ カイガラムシ類

クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は、9月上旬頃と予想されます。合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用した園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

越冬雌成虫の誘殺を目的としたバンド処理は9月中旬頃までに行いましょう。

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。